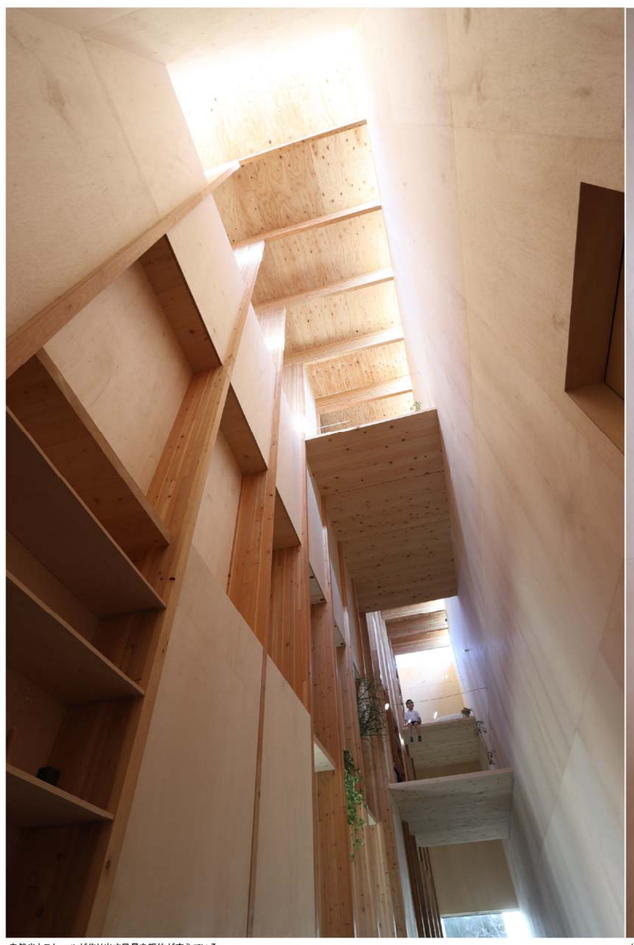
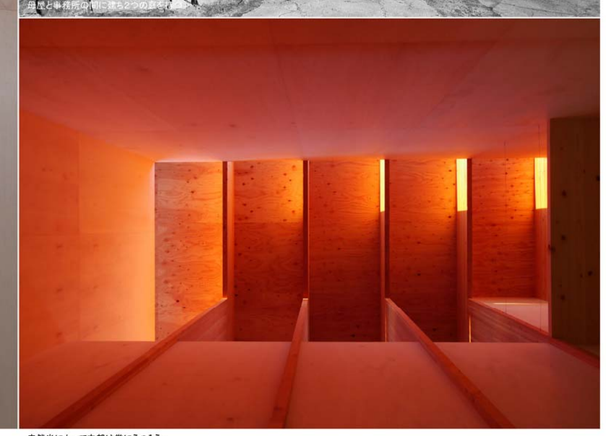


自然光とスケールが作り出す風景を躯体が支えている。

地面とつながる床と浮遊する床。

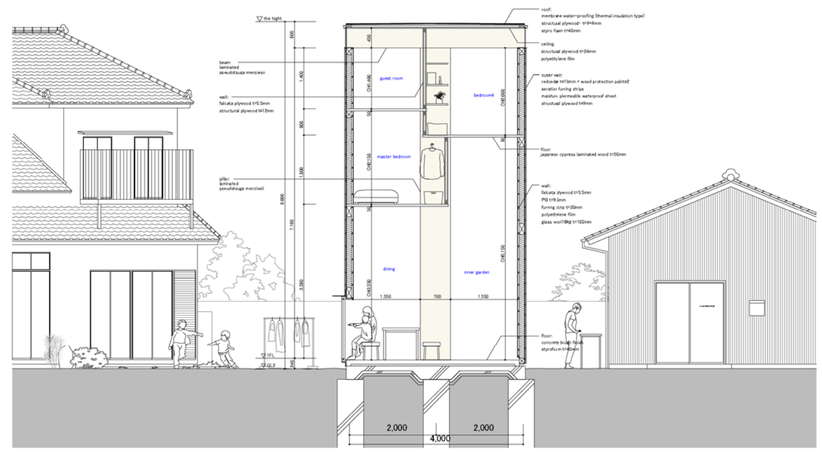
連続する壁柱の間を行き来する人や空気。



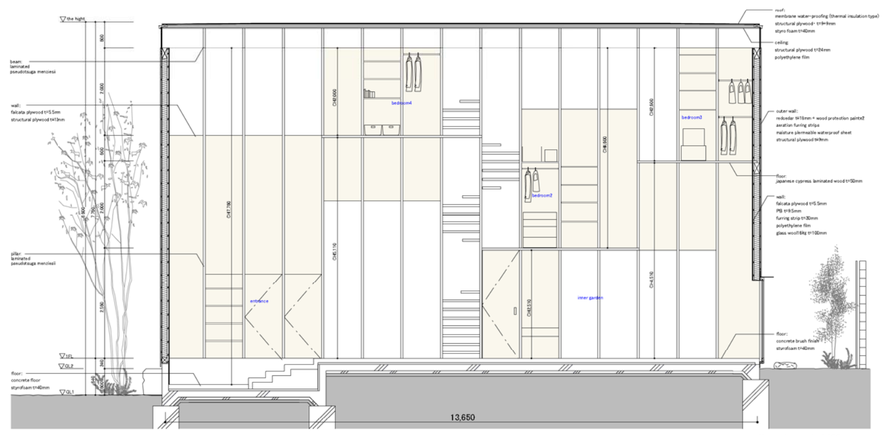
自然光によって内部は常にうつろう。

竪の家

住宅には室名と機能とヴォリュームの関係がある。それらを合理性のみで組み立てると空間と暮らしを硬直した不自由な関係にしてしまうことがある。スケールによって包み込まれる感覚やおおらかな広がりを感じる感覚が同居する場をつくりたい。この計画では、立体をつくる縦横高さを分解し、居室の「幅」に包まれるようなヒューマンスケールを、「長さと高さ」に周囲の街並みや敷地から導いたスケールを用いて計画した。居室幅は住生活のシュミレーションを繰り返し最小公約寸法として1.55mを有効寸法としている。幅1.55m奥行き3.5m高さ8mの気積が、柱梁一体のT型構造体を挟んでふたつ並んでいる。小さな幅の中で感じる親密な感覚と、離れた場所にいながら空間を共有する感覚を同時に感じること。場のスケールが人の移動や距離感によって伸縮を繰り返すこと。反復する構造体の間を人や光、風が自由に行き来することで、合理性のなかに豊かさが生まれること。新たなスケールによって、両義的な新たな自由が現れた。上階の居室は、階段に合わせて少しずつ位置をずらしながら螺旋状に配置した。床は居室の幅が狭いことにより、梁を必要とせず50mmの板によって支えている。それにより上下階の関係は緩やかに繋がっている。柱間隔は日本で用いられる910mm間隔のモデュールを採用しながら構造体に幅55mm奥行き700mmという新たなスケールを用いることで伝統的な寸法体系のなかに新しい空間体験が加わっている。構造体上部の間から射し込む自然光が反射を繰り返し、やわらかい空気として内部空間を覆うこともあれば、朝日や夕日が鋭く射すこともあり「自然光とスケールがつくり出す風景」を躯体が支えている。また、建物幅を絞ることで外部では母屋と事務所の間に余白が生まれている。家の周りにアクティビティが生まれやすいスケールにすることで、暮らしや仕事が日常的に賑わいとして街の表情に繋がっている。ここでは住宅の用途を拡張し、ギャラリーやマルシェ、海外 インターンのための民泊を予定しており、個人住宅が用途を超えて世界とつながればと考えている。



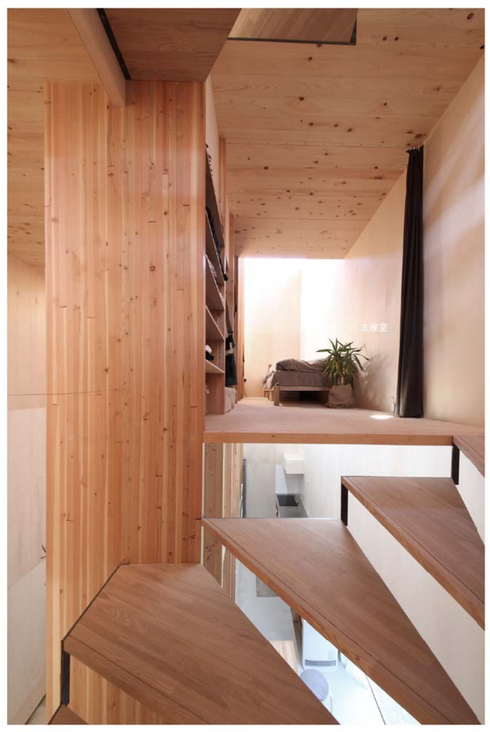
A sectional scale 1:100

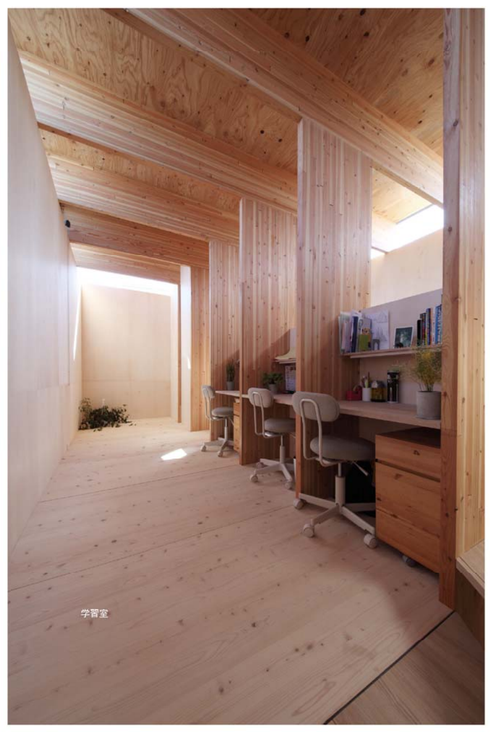


B section scale 1:100

□各居室における行為と必要寸法

□幅1550mmの各居室

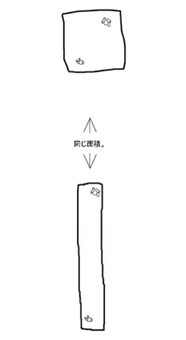


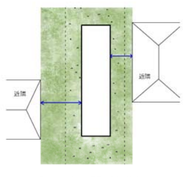


□ダイヤグラム

面積＝幅×長さ

コストに比例した床面積という関係ではなく
空間の広がりを感じられるスケールによって
空間を仕立てることは出来ないだろうか。





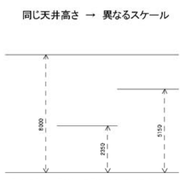
建物幅を小さくすることで奥側に縦後空間が生まれる。
生活空間及びギャラリーは外部へ展開する。

異なる形 → 同じ形

リビングは広く子供部屋は小さくといった
面積や部屋ごとに異なる縦横比を見直すことで
新しい関係が見つからないだろうか。

生活行為を検証し必要最小限の幅を導き、全ての部屋を同一幅としたうえで全ての居室を繋ぐ。小さな居室は水平・垂直に拡張し今までにない広がり、重なりを感じる居室となる。短辺方向のスパンが短いことで壁や床も家具のようなスケールとなる。

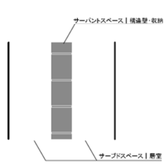
同じ天井高さ → 異なるスケール



煙突使に煙突を配置することで異なるスケールが生まれる。

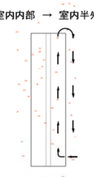
支える ＋ 支えられる

住空間を大きく分けると住機能を支える側と
支えられる側に分けられる。
前者を建物中央に配置し2つの場を設ける。



サーバントスペース	サーブドスペース
構造壁	エントランス
下足収納	フリースペース
キッチン収納	キッチン
洗面台	ダイニング
トイレ	図書室
学習机	ゲストスペース
本棚	主寝室
棚小屋	洗面室
押入れ	浴室
洗面台収納	子供部屋
常置用品収納	学習室

室内内部 → 室内半外部



雨樋を活用させ内外シームレスな状況を作る。

環境＝高さ×開口

高い天井高を設けることで夏場の
重力換気を促し高窓から排熱。
冬場は高窓から終日材熱を取り込み
送風機によって室内を満遍なく暖める。

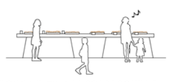
南窓｜
近隣住宅によって自然風が遮断されない位置とし
陽の移ろいが室内に反映されるように全面に設置。

住宅 ≒ Private house

住宅に小さな公共性を持たせることで
家族に個性的な暮らし方や環境が生まれ
街に新たなにぎわいが生まれる。

住宅は街の小さな図書館になる。

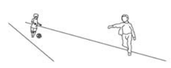
住宅は週末マルシェになり美味しいパンが並ぶ。



住宅は時々ギャラリーになり遠方からも来客が訪れる。

住宅は夏の間、外国人の宿泊施設になる。

住宅は平日の夜、子供たちのサッカー場になる。

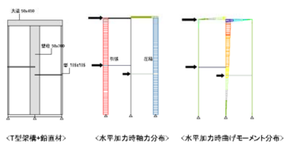


建築 ≒ 家具

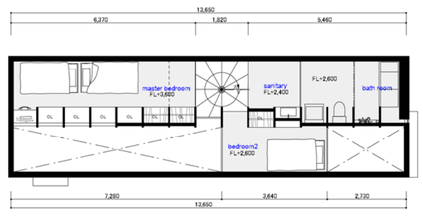
家具のような寸法で建築を考え
家具のような施工方向で建築を
組み立てる。

構造計画

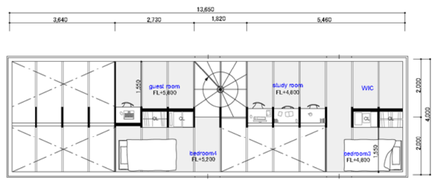
主要な耐震要素となるT型の大架構を、桁行方向に対して連続的に配置することで、張間方向の地震力に抵抗している。これらは集成材による55×700mmの柱と55×450mmの大梁からなり、柱?梁および柱脚?基礎を接着剤併用接合にて固定して一体化している。また、大梁の両端部に柱を配置することで、水平荷重時の柱の曲げ戻し効果を高め、建物全体の水平剛性を向上させている。各レベルの床には50mm厚のヒノキの無垢板を用いており、それを短辺一方向に架け渡し大架構の柱と接着剤併用接合にて一体化することで、面内のせん断剛性を確保し、同時に柱の座屈を補剛している。



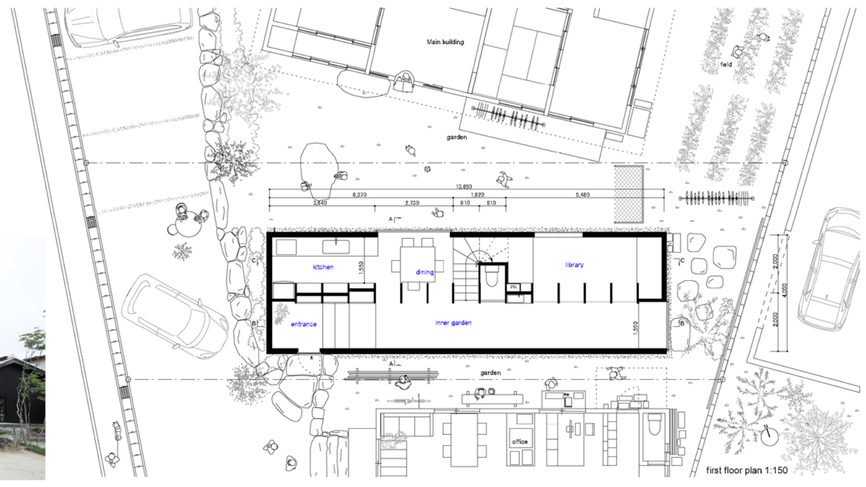
<T型架構+鉛直材>　<水平加力時軸力分布>　<水平加力時曲げモーメント分布>



Second floor plan 1:150



Loft floor plan 1:150



first floor plan 1:150

所在地：愛知県豊田市|主要用途：専用住宅+ギャラリーなど|主体構造：木造在来工法|階数：地上2階|敷地面積：184.00㎡|建築面積：54.60㎡|床面積：1F 54.60㎡ / 2F 47.64㎡ / T 102.24㎡|設計期間:2014年5月～2017年5月|施工期間：2017年6月～2017年12月